

講壇点滴

死に対する勝利

コリントの信徒への手紙一

一五章五〇〜五八節

牧師 姜 涇 米

一五章でパウロが語るの、イエス・キリストを信じる信仰者たちがこの世の終わりの日、主イエスの再臨の時に復活して、新しい体、霊の体を与えられるという信仰の希望についてでした。その希望の根拠は、主イエス・キリストの復活です。

主イエスは私たちのために、私たちの罪を全て背負って十字架にかかって死んでくださいました。その主イエスを、神様は復活させてくださいました。それは私たちのための復活です。神様が終わりの日に私たちにも新しい命と体を与えてくださる、その初穂、先駆けとして主イエスは復活されたのです。主イエスの復活によって、私たちもこの肉体の死を越え、新しい命、新しい体を与えられるという希望に生きることができるようになったのです。

肉と血、朽ちるものは、神の国、朽ちないものを受け継ぐことができない、私たちは今のこの体のままで、この人生で、救いの完成を得ることはできないのです。

「神秘」というのは「隠されたこと、秘密」という意味の言葉です。通常隠されていて、信仰によってしか分からない秘密を告げるということです。今と異なる状態に変えられる、肉と血、朽ちるものであり、だから神の国を

受け継ぐことができない私たちが、霊の体へ、朽ちないものへ変えられるのです。そして神の国を受け継ぐ、救いの完成にあずかるのです。

そのことはいつ、どのようにして起こるのか五二節にあります。これが終わりの日の死者の復活です。世の終わりにキリストがもう一度来られるその時に、私たちは復活し、朽ちないもの、神の国を受け継ぐ者へ変えられるのです。このことが、パウロが告げている、隠された、信仰によってしか分からない秘密です。そしてそれはすでに約束されている神様のご意志です。私たちはこの神様のご意志を、信仰によってしか知ることができないのです。

この復活の希望、神様の恵みによる「死に対する勝利」の希望に生きる時、私たちのこの世の生活は変わります。肉と血の歩み、朽ちるものであるこの体の歩みは、どんなにすばらしいものであっても、神の国を受け継ぐことはできないのです。

私たちが主の業に常に励むのは何故か、それは主に結ばれているなら自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを知っているからです。無駄にならない、それは滅んでしまわない、朽ちてしまわないことです。人間の業は滅んでいくもの、朽ちていくものです。しかしこの人生において私たちがする苦勞の中で、神の国へと、朽ちることのない、死ぬことのない復活の命へとつながっていくことが一つだけあるのです。それは、「主に結ばれて」する苦勞です。洗礼を受けて教会の一員になり、主の業に励むことです。神様を信じ、礼拝し、主に仕えて生きることです。

(二月二九日 公同礼拝)

二〇二三年一月講壇一覽

第一主日(一月一日) 新年礼拝

「真の安息日」 高橋和人牧師

ホセア 六・一〜六

マタイ 一二・一〜八

第二主日(一月八日) 公同礼拝

「命を与える霊」 姜 涇米牧師

創世記 二・七

コリント一 一五・四二〜四九

第三主日(一月十五日) 公同礼拝

「争わず、叫ばず」 高橋和人牧師

イザヤ 四二・一〜四

マタイ 一二・九〜二一

第四主日(一月二十二日) 公同礼拝

「霊に対する冒瀆」 高橋和人牧師

エレミヤ 二八・一〇〜一七

マタイ 一二・二二〜三二

第五主日(一月二十九日) 公同礼拝

「死に対する勝利」 姜 涇米牧師

詩編 九九・一〜三

コリント一 一五・五〇〜五八

